



平成 30 年度 戴帽式

2018年6月9日（金）



緑公会堂にて8期生の戴帽式が挙行されました。

戴帽式は看護学生にとって一生に一度の神聖かつ特別な式典です。厳かな雰囲気につつまれたなか、80名ひとりひとりが教員からナースキャップを授かり、ナイチンゲール像のキャンドルから灯火を受け取りました。

ナースキャップは看護職の象徴です。いま現在臨床の現場でかぶることはありませんが、サッカーW杯で戦った国の選手同士が互いの健闘を称えユニフォームを交換するように、ユニフォームというものには意味や思いが込められているものです。戴帽式においてナースキャップは、看護の道を歩む準備ができた証であり、看護師の先輩である教員が未来の看護師たちに託す思いの形であり、人の命を預かる看護職の重みと責任を象徴するものです。そして、灯火はナイチンゲールの“看護の心”を意味します。その両方を受け取ったことの意味と、今日全員で誓った言葉をしっかりと胸に刻み、看護の道を一步一步歩いてほしいと思います。

8期生のみなさん、戴帽おめでとうございます。

※IMSグループの各病院・その他実習病院様・出身高校様より、お祝いのメッセージを多数頂戴しました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。



誓いの言葉

ひとつ、患者様の想いに気付き、その人らしさを尊重し、その人の
人権を第一に考えた看護を行います。

ひとつ、個人情報を保護し、守秘義務を遵守します。

ひとつ、患者様に危害を及ぼさないこと、また危害が及ばないよう
患者様を守ります。

ひとつ、自己の責任と能力を自覚し、専門職として責任のある行動
をとります。

ひとつ、正しい知識と確かな技術を身につけ、研究を惜しまず、医療や
社会に貢献できる看護師になります。

わたしたち8期生80名は、戴帽式を迎えられたことに感謝し、

今ここに誓います。



<笑顔あふれるオフショット>

